

平成21年度 校内研修(究)計画書

十和田市立北園小学校

1 学校の教育課題

教育目標	三本木開拓の精神に学び、郷土の発展に寄与する人間の育成
<かしこく>	創造力があり、未知を切り開く子ども
<やさしく>	情操豊かで、意志の強い子ども
<たくましく>	体が健康で、たくましい子ども

本校の児童は、明るく元気で素直な子どもが多い。保護者は協力的で、教育に対する関心が高く、自分から進んで学ぶ態度と力をもつ子どもになって欲しいと願っている。

昨年度から始まった学びタイムや学習における機器活用・放送番組の活用の在り方に関する校内研修等の取り組みの成果として、平成20年度の学力検査の分析においては、平成19年度同様、どの教科においてもほぼ全ての観点で全国平均を上回っている。前年度に比べ向上が見られることから基本的な力は着実に身につけてきていると言える。しかし、国語の「話す・聞く」の到達度が、若干ではあるが他の領域に比べて低い傾向がみられる。自分の考えを、しっかりと言葉や図・表などで表現する力を育て、交流させることで、児童の学力は今以上に確かなものになると考える。

以上のことから、「夢や希望をもち、自分の力で未来を切り開いていく子」を育てていくために、問題を実際に解くだけでなく、自ら問題を作成したり、解き明かしていこうとしたりする「主体的に学ぶ態度と力」を培うことが大切であると考え。そのために、今年度は、子どもたちが学習の主体となることができる(子どもたちが「解決したい」「追究したい」という思いが生じる)教材の開発、調べ学習や操作活動を重視した授業、指導計画や指導体制などを工夫しながら、学びを深める授業のあり方を模索した校内研修を行いたい。

2 本校の研修計画

(1) 研究主題

自ら考えたことをもとに、対話する力を育てる授業の追究
～メディア教育との関わりを通して～

(2) 主題設定の理由

① 学習指導要領との関連

昨年3月28日に公示された新学習指導要領では、知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力などの育成、言語活動の充実、学習習慣の確立などを謳っている。

また、平成18年2月、中央教育審議会の教育課程部会「審議経過報告」では、知識・技能

の習得と考える力の育成との関係を明確にする必要があることから、次のように述べている。

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることを基本とする。
- ・理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力の育成を重視する。
- ・知識・技能を活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行うことで、自ら学び、自ら考える力を高める必要がある。

これらのことから、学習の順序としては、基礎的基本的な知識・技能の定着から活用できる力の育成、探究力の育成へと推移していくものとしている。

②児童の実態，学校や地域の課題との関連

「本校児童に必要な力」の分析では、本校児童は「表現方法が稚拙であり、お互いの考えの発表から自分の考えをさらに深化させるような学びができていない。」という意見が出され、学びを深めていくためには、コミュニケーション力や表現力の必要性が挙げられた。

そこで、自ら話したり聞いたりすることの楽しさを味わわせるとともに、適切に話したり聞いたりする力を育成することができる授業の在り方について研究を深め、児童の「対話する力」を高める必要があると考える。

③これまでの研究の成果と課題の関連

20年度の研究では、学校放送番組やデジタルコンテンツや各種情報機器を活用することにより、資料の読み取りや内容理解が深まり、自分なりの考えを明確に持つことができるようになったという成果が得られた。

また、ペア交流，グループ交流，全体交流，また課題別交流等，発達段階や学習内容に応じて交流の仕方を工夫することで、自信を持って伝え合うことができるようになった。さらに、それぞれの交流場面で、異なった観点や視点で話し合いを進めることで、思考に広がりが見られるようになった。以上のことが大きな成果としてあげられる。

今後は、各種の視聴覚機器や学校放送番組及びビデオクリップ等のメディアとの関わりの中で、思考がさらに深まり、追究を続けていこうとする態度と意欲が持続できるような、交流場面における発問や支援の在り方を研究し、児童の「対話する力」の育成に努めていきたいと考える。

(3) 研究目標

「対話する力」^①を育てるためには、教材^②(学校放送番組，デジタルコンテンツ)を効果的に単元の中に組み入れ、伝え合う場^③の支援を工夫することが効果的であることを授業実践を通して明らかにする。

① 「対話する力」とは

本校では、「対話」を単に人と話すことと捉えるのではなく、人以外にも学習の対象に積極的に関わりを持つようとするものと捉える。

→人と

- ・だれに対しても関わろうとする関心，意欲，態度
- ・自分の考えを伝える技能，表現
- ・友達一人ひとりの考えをよく聞き，それをもとに自分の考えを高めようとする意識
- ・自分自身との対話(心内対話)

→教材と

- ・教材に関わりを持つようとする態度
- ・教材に思いを持つようとする関心，意欲，態度
- ・教材をもとに学び取る技能・表現

② 教材とは

通常の教材は勿論であるが，本校研究においては放送番組やデジタルコンテンツ，ビデオクリップ等も教材のひとつとして捉える。

これらを見童とどのように関わらせていくことが「対話する力」の育成に有効であるか研究する。

③ 伝え合う場とは

人との交流によって思考を広げ深める場と捉える。

本校では伝え合う場で発問や支援の工夫をすることが「対話する力」を育てるのに有効であると考え研究を進める。

(4) 研究仮説

学習のねらいに応じて学校放送番組や機器を活用し，子どもが得た情報や考えたことをもとに伝え合う場を工夫すれば，的確に表現し，対話する力が育つであろう。

(5) 仮説の検証に向けて

○伝え合う場の工夫

- ① 自分の考えをまとめ，整理するための書く活動の工夫
- ② 伝え合う場の学習形態の工夫
- ③ 伝え合う場の発問の工夫
- ④ 伝え合う場の支援の工夫
- ⑤ 「対話する力」が育つ言語環境と日常活動の在り方

○学校放送番組や機器の活用

- ① 単元内での活用場面の工夫
- ② 学習段階における活用場面の工夫
- ③ 提示方法，使用形態の工夫